

特集

生み出そう！津山の産業

～産学官民の連携で産業の活性化を～



11月13日と14日、津山総合体育館を会場に「第8回夢と技術の産業展」が開催されました。「にぎわいの創造と発信」をテーマとし、製造業だけでなく、商業・観光・農業関係団体からも参加するなど、地域産業をあげて取り組みました。この産業展でのもう1つの核となるテーマが「産学官民連携」による事業の取り組み。今月は、この産学官民の連携を中心に、津山の産業を紹介します。

津山の産業

津山の産業は、以前は木材や和紙など地元の資源を利用した産業を中心としていました。しかし、昭和50年11月の中国道開通を機に関西方面から誘致した機械器具・電気機械製造などの業界が主役になり、工業出荷額、事業所数とも急激に伸びました。

バブル崩壊は津山の産業にも大きなダメージを与えましたが、企業や産業関係者の努力で活性を取り戻しつつあります。

山工業高等専門学校があり、産業振興策として、学術研究機関と企業や行政機関との連携、つまり産学官の連携で新技術・新商品の開発に取り組んでいます。

産業への取り組み

津山の産業発展のための具体的な取り組みを紹介します。

つやま新産業開発推進機構

津山圏域の資源や組織を有効に活用し、地域産業をリードしていく推進力となるよう平成8年に設立された津山市の外郭団体。雇用労働センター（山下）内にあります。

産業界、学術研究機関、行政機関との連携により以下の3分野を中心に新商品・新技術開発の支援やマーケティング支援など地域産業の育成・強化に力を注いでいます。

ステンレス加工業

津山地域には70社以上のステンレス加工企業があり、その技術は全国的にも知られています。このステンレス加工業を津山の主導的な産業に育てようと、津

山ステンレスネットなど業界で連携した取り組みを支援しています。

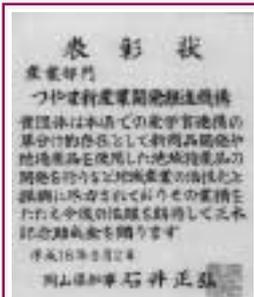
地産地消による食品加工業

地域の主要産業である農業とも連携し、地元で採れた農畜産物を消費者の要望に応じた安心・安全な加工食品として開発し、津山発のブランドに育てようと支援しています。

ユニバーサルデザイン関連産業

安心・安全で誰にでも使いやすい商品（ユニバーサルデザイン商品）の開発を産学官民の連携により支援しています。

つやま新産業開発推進機構が進めてきた活動は、岡山県での産学官連携の草分け的存在であり、9月にはこれまでの取り組みが評価され、「岡山県三木記念助成金」を受賞しました。



津山ステンレスネットで

開発された商品



六方管継手



チャンパー



エクセントリックティーズ



径違いティーズ

ここがポイント

ステンレスは鉄にニッケルとクロムを合わせてできた金属。さびにくいのが特徴ですが、加工がむずかしく高度な技術が必要です。たとえば、溶接部分。そこに凹凸ができるとその部分に残留物がたまり食品加工などの分野では衛生面に問題があります。そこで、必要になるのが溶接部分が滑らかであること、残留物が残らないようにする工夫。これを実現するには、高い技術力が要求されるのです。



津山ステンレスネット

高い技術力を持った、多くの企業が集まっている津山地域のステンレス加工業。平成9年に産学官が連携し、より高精度・高性能・高付加価値の製品を提供するための共同受注グループ「津山ステンレスネット」を立ち上げました。

津山高専との協力などで新技術・新商品開発や技術者のための研修会を開催し、ステンレス業界のオンライン的企業集積をめざしています。

共同受注グループで?

文字どおりグループで共同受注することです。グループで受注することで、製品を部分ごとに分担して受け持ち、効率的に生産することが可能になります。また、全工程をそれぞれの企業が得意分野の加工に携わることとで、より高精度、高性能の製品をつくることができます。

これにより、1つの企業では対応できなかった完成品としての受注にも応じることができるようになりました。

津山圏域工業会

美作1市5郡の工業団体を再編・統一して平成12年に設立。企業のQC(品質管理)活動の共同発表会や研修会を実施し、より高水準な活動をするための改善活動を進めています。

津山地域食品関連業種交流会

津山地域の食品関連企業がグループを編成し、情報の共有化や経営資源の補完を行いながら、地域の伝統食や特色ある食材をテーマに料理教室などを企画しています。

美作大学技術交流プラザの4つのグループ

食品グループ

地産地消をテーマに、産学官のほか農業者や消費者が参加。つまり産学官民が連携し、地元農畜産物の加工による新商品開発を行っています。開発した商品には統一ロゴ(つやま夢みのり)を冠し、地域発のブランド化をめざしています。

繊維・日用品グループ

ユニバーサルデザインをテーマに介護施設とも連携して商品を開発。片手で巻けてほどこにくいマフラーやふくらはぎウォーマーは、すでに数万本を売り上げヒット商品となっているほか、「ブラックシリカ」など新しい素材に着目した機能性商品の開発も行っています。

生活科学グループ

お茶などに利用され健康飲料として話題の「杜仲^{とちゅう}」についての研究やそれを飼料にした「杜仲地鶏^{じじゅう}」の商品化を行うとともに、現在新しいテーマを検討しています。

建築・備品グループ

大学や行政に加え、建築士や木工業、製材業、造園業、デザイン会社など多様な業者の連携により、地元素材を使用したユニバーサルデザインの住宅や家具、建材などの商品開発に取り組んでいます。

津山高専技術交流プラザ

地域企業のニーズと高専の技術力を合わせ、共同研究を通じて地域産業の振興に貢献していくことに力を注いでいます。情報通信技術で会社内LANやセキュリティ面での支援を行っています。

美作大学技術交流プラザ

産学官連携による新産業・新事業の育成をめざし、津山地域の産業発展に寄与する目的で平成11年に発足しました。現在4つのグループに分かれて研究を行っています。